

彙 報

会長 川本 茂雄

昭和57・58年度常任委員選挙の結果について

選挙規則に基づき、57年3月末で任期満了の常任委員4名に代わる新常任委員の選挙を、郵便投票（2月25日締切）によって行った。3月6日に選挙管理委員（石綿敏雄、国広哲弥、下宮忠雄、田村すゞ子、野元菊雄、湯川恭敏）立合の上、開票。以下の各氏が当選した。

投票者数 22

うち有効投票数 21

当選者

B大地区（関東） 日下部文夫、田村すゞ子

C大地区（中部・近畿） 岸本 通夫

D大地区（中国・四国・九州・沖縄） 関本 至

昭和57年度第1回常任委員会

日時：5月1日（土）午後2時～5時

場所：早稲田大学語学教育研究所会議室

出席者：川本茂雄（会長）、日下部文夫、田村すゞ子、蛭沼寿雄、宮岡伯人

欠席者：岸本通夫、柴田武、関本至（以上委任状あり）、池上嘉彦（委任状なし）

議事ならびに報告

- 1) 昭和56年度決算報告書を検討、了承した。
- 2) 昭和57年度予算案を作成した。
- 3) 第84回大会プログラムを決定し、案内状作成の準備をした。
- 4) 第85回大会（57年秋、大阪樟蔭女子大学）の日程について検討した。
- 5) 第86回大会（58年春）の開催地について検討した。

- 6) 国際言語学会議日本代表候補者について報告があった。
- 7) 他機関からの学会誌寄贈要請に対する処置について検討した。
- 8) 56年度事務局職員のうち、三川基好、藤吉憲生兩名の退任と、57年度事務局職員として田村すゞ子（主任，継続）のほか濱口幸一（助手）を嘱任することを，委員会に報告し，承認を求めることを了承した。
- 9) 昭和53年以前発行の名簿を，保存分だけ残して廃棄する案を委員会に提出し，承認を求めることを予承した。

昭和57年度第1回委員会

日 時：6月5日（土）午前10時～12時

場 所：上智会館特別会議室

出席者：川本茂雄（会長），池上二良，石綿敏雄，井出祥子，井上史雄，岩本忠，上野善道，大東百合子，日下部文夫，国広哲弥，近藤達夫，柴田武，下宮忠雄，庄垣内正弘，杉藤美代子，竹内和夫，田村すゞ子，長嶋善郎，平山輝男，蛭沼寿雄，堀井令以知，前田富祺，松田徳一郎，三根谷徹，三宅 鴻，宮島達夫，村山七郎，矢島文夫，藪 司郎，湯川恭敏，吉町義雄（以上31名）

オブザーバー：泉井久之助，服部四郎（以上副会長），井上和子（ICU），徳川宗賢（以上会計監査委員）

欠席者（委任状あり）：池上禎造，池上嘉彦，井本英一，大江三郎，奥津敬一郎，長田夏樹，鬼 春人，加藤正信，北嶋静江，岸本通夫，北村 甫，金田一春彦，小泉 保，阪倉篤義，崎山 理，佐藤 茂，清水克正，関本 至，田中克彦，寺村秀夫，西 義郎，野村正良，野元菊雄，橋内 武，林 栄一，早田輝洋，原 誠，藤本幸夫，松浪 有，松本克己，安本美典，山口 滋，山末一夫，吉川 守（以上34名）

欠席者（委任状なし）：大江孝男，亀井 孝，鈴木孝夫，塚本 勲，長谷川欣佑，吉田金彦（以上6名）

議事および報告

- 1) 常任委員選挙結果の報告（p. 171 参照）。

- 2) 第1回常任委員会の報告
- 3) 昭和56年度決算報告を示し、これが承認された（別表1参照）。
- 4) 昭和57年度予算案を提出し、審議の上これが決定された（別表2参照）。
- 5) 国際言語学者会議への派遣代表の選挙。規約により上記の選挙を行った結果、国広哲弥氏が当選した。
- 6) 第85回大会（57年秋）を10月16日（土）、17日（日）の両日、大阪樟蔭女子大学（運営委員長 杉藤美代子氏）で開催することになった。
- 7) 第86回大会（58年春）の開催に関し、一橋大学、慶応大学を第一候補として、会長が交渉を進めることになった。
- 8) 事務局職員の交代について報告し、これが承認された（常任委員会議事録8参照）。
- 9) 会則その他の制度を検討するため、制度検討委員会を本年秋から設置する案を提出し、投票の結果承認された（賛成27、反対2、白票1）。そのメンバー等具体的事項は秋の委員会で決定することになった。
- 10) 堀井令以知氏（編集委員長）から、『言語研究』の表紙に国際標準逐次刊行物番号 ISSN (International Standard Serial Number) 0024-3914 (キー・タイトル Gengo Kenkyū) を載せる案が出され、これが承認された。
- 11) 柴田武氏（九学会連合代表理事）から九学会連合の活動状況の報告があった。
- 12) 井上和子氏（国際言語学者会議組織委員会事務総長）から、国際言語学者会議の準備状況について報告があった。

第84回大会

期 日 昭和57年6月5日（土）・6日（日）

会 場 上智大学10号館講堂

第1日（6月5日）

開会の辞

フェリス・ロボ

公開講演（午後2時より）

Linda R. Waugh 「On Iconicity」

太 田 朗 「文法理論の変遷と現状」

会員懇親会（午後5時30分より）

第2日（6月6日）

研究発表（午前9時30分～12時）

- | | |
|---|----------------------|
| (1) チンパンジー言語について | 清水研明 |
| (2) ユーラシア比較言語学の試みⅢ
——日本語系統論と印欧語根 /*l/, 日本語語彙 *kapi—— | 新谷光二 |
| (3) 蒙古語史における「*iの折れ」の問題点 | 栗林 均 |
| (4) 第三者に対する敬語の数量化 | 荻野綱男 |
| (6) 日本語 /ɾ/ の調音について
——エレクトロバラトグラフィによる観測—— | 須藤路子
桐谷 滋
吉岡博英 |

定例会員総会（午後1時～1時30分）

研究発表（午後1時30分～3時30分）

- | | |
|---|------|
| (6) 英語の二重目的語構文の一考察
——tough 構文における目的語前置に対する制約について—— | 菅野憲司 |
| (7) トレースの異化 | 高橋孝二 |
| (8) 非階層言語と普遍文法の表示をめぐって | 今井 隆 |
| (9) アラビア語における関係節 | 武内道子 |

閉会の辞

川本茂雄

[別表 I] 昭和56年度日本言語学会決算表

自 昭和56年 4 月 至 昭和57年 3 月 (単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,053,327	1 刊 行 費	2,731,252
C 雑 誌 売 上	219,350	2 編 集 費	122,830
D 文 部 省 補 助 金	670,000	3 発 送 費	321,001
E 預 金 利 息	21,502	4 大 会 関 係 費	725,880
F 雑 収 入	52,000	5 委 員 会 費	22,160
		6 常 任 委 員 会 費	181,970
		7 九 学 会 連 合 会 費	50,000
		8 C I P L 負 担 金	54,000
		9 選 挙 関 係 費	39,215
		10 通 信 費	205,258
		11 事 務 費	212,261
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	691,300
		16 雑 費	1,000
収 入 合 計	7,016,179	支 出 合 計	5,418,127
A 前 期 繰 越	943,360	15 選 挙 関 係 等 金	1,000,000
		17 次 期 繰 越	1,541,412
計	7,959,539	計	7,959,539

○ 収入内訳

F 雑 収 入	早稲田大学からの補助金	50,000
	匿名寄付	1,000
	同上	1,000

○ 支出内訳

1 刊 行 費	第80号	1,409,614
	第81号	1,321,638
3 発 送 費	第80号他	174,115
	第81号他	146,886

4 大会関係費	第82回大会	309,873
	第83回大会	416,007
5 委員会費	第1回	12,805
	第2回	9,355
6 常任委員会費	第1回	76,990
	第2回	104,980
9 選挙関係費	封筒代および印刷費	17,965
	郵送料等	9,120
	選挙管理委員会経費	8,230
	事務手伝い謝金	3,900

〔別表 2〕 昭和57年度日本言語学会予算表

自 昭和57年 4 月 至 昭和58年 3 月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 前期繰越	2,541,412	1 刊行費	3,300,000
B 会費	6,015,600	2 編集費	100,000
C 雑誌売上	200,000	3 発送費	500,000
D 文部省補助金	670,000	4 大会関係費	750,000
E 預金利息	50,000	5 委員会費	30,000
F 雑収入	50,000	6 常任委員会費	400,000
		7 九学会連合会費	50,000
		8 C I P L負担金	50,000
		9 選挙関係費	1,000,000
		10 通信費	300,000
		11 事務費	350,000
		12 事務所賃借料	60,000
		13 事務局職員謝金	1,000,000
		14 予備費	900,000
		15 選挙関係等準備積立金	700,000
		16 雑費	37,012
計	9,527,012	計	9,527,012

◇ 物 故 会 員

池上 保太 (昭和57年 1月21日逝去)

石黒 銀雄 (昭和56年 7月16日逝去)

長谷川清喜 (昭和56年 6月19日逝去)

原田 正春 (昭和56年11月19日逝去)

薬師 正男 (昭和56年 9月22日逝去)

大 会 開 催 校 一 覧

第8回大会	東京大学 (21. 5. 18)
第15回講演会	東京大学 (21. 10. 5)
第16回講演会	東京大学 (22. 5. 3)
第9回大会	慶応義塾大学 (22. 5. 17)
第18回講演会	東京大学 (22. 10. 11)

第10回大会	京都大学 (23. 5. 13)
第20回講演会	東京大学 (23. 10. 23)
第11回大会	東京大学 (24. 5. 21)
第2回会員研究発表会	東京大学 (24. 11. 19)
第12回大会	東京大学 (25. 6. 3)
第13回大会	名古屋大学 (26. 5. 26)
第25回講演会	東京教育大学 (26. 11. 17)
第14回大会	東京大学 (27. 6. 14)
第27回講演会	京都大学 (27. 11. 1)
第15回大会	早稲田大学 (28. 5. 23)
第29回講演会	南山大学 (28. 10. 24)
第16回大会	学士会館 (29. 5. 14)
(第31回大会より大会と講演会と合わせた回数)	
31	東京大学 (29. 10. 31)
32	京都大学 (30. 5. 28)
33	上智大学 (30. 11. 13)
34	宮城学院女子大学 (31. 5. 19~20)
35	国学院大学 (31. 11. 18)
36	岡山大学 (32. 5. 25~26)
37	法政大学 (32. 11. 17)
38	天理大学 (33. 5. 24~25)
39	中央大学 (33. 10. 26)
40	東京都立大学 (34. 6. 14)
41	神戸市立外国語大学 (34. 10. 24~25)
42	明治大学 (35. 5. 21~22)
43	大阪大学 (35. 10. 22~23)
44	関西学院大学 (36. 6. 3~4)
45	静岡大学 (36. 10. 21~22)
46	東京教育大学 (37. 6. 2~3)

- 47 金沢大学 (37. 10. 27~28)
- 48 東京外国語大学 (38. 5. 18~19)
- 49 九州大学 (38. 11. 9~10)
- 50 国際基督教大学 (39. 5. 16~17)
- 51 広島大学 (39. 11. 14~15)
- 52 早稲田大学 (40. 5. 15~16)
- 53 東北学院大学 (40. 10. 30~31)
- 54 青山学院大学 (41. 5. 27~28)
- 55 京都大学 (41. 10. 15~16)
- 56 東京大学教養学部 (42. 5. 26~27)
- 57 島根大学 (42. 10. 6~ 7)
- 58 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
(43. 5. 25~26)
- 59 大阪外国語大学 (43. 10. 19~20)
- 60 法政大学 (44. 6. 7~ 8)
- 61 愛知学院大学 (44. 10. 24~25)
- 62 成蹊大学 (45. 5. 16~17)
- 63 九州大学 (45. 11. 7~ 8)
- 64 津田塾大学 (46. 5. 29~30)
- 65 北海道大学 (46. 10. 2~ 3)
- 66 国際基督教大学 (47. 5. 27~28)
- 67 関西外国語大学 (47. 11. 11~12)
- 68 上智大学 (48. 10. 20~21)
- 69 大阪大学 (49. 10. 12~13)
- 70 関西学院大学 (50. 6. 14~15)
- 71 京都産業大学 (50. 10. 11~12)
- 72 学習院大学 (51. 6. 12~13)
- 73 名古屋大学 (51. 10. 23~24)
- 74 東京女子大学 (52. 6. 18~19)

75	京都外国語大学 (52. 10. 15~16)
76	早稲田大学 (53. 6. 3~ 4)
77	関西外国語大学 (53. 10. 14~15)
78	東京都立大学 (54. 6. 2~ 3)
79	天理大学 (54. 10. 13~14)
80	東京外国語大学 (55. 5. 17~18)
81	京都大学 (55. 10. 18~19)
82	茨城大学 (56. 5. 30~31)
83	北海道大学 (56. 10. 17~18)
84	上智大学 (57. 6. 5~ 6)
85	大阪松蔭女子大学 (57. 10. 16~17)

昭和57年度第1回委員会で大会開催校リストを掲載してほしいとの意見がありましたので、終戦後の分をまとめました。 (編集委員長)

◇日本学術会議会長伏見康治氏より当学会会長あてに、下記のような報告を機関誌に掲載してほしい旨の依頼(昭和57年5月26日付)がありましたので、ここに掲載いたします。

学 術 会 議 改 革 試 案 を 採 択

——日本学術会議第85回総会報告——

多くの懸案をかかえ注目されていた日本学術会議第85回総会は5月19・20・21の3日間にわたり開催された。この間に161件の報告、8件の議案が提出されたが、終始活発な質疑討論の後、議案は原案どおり、あるいは若干の修正のうえで、すべて承認された。採択された改革試案(「月報」5月号掲載)をもとに今後学・協会をはじめ広く各方面の意見を求めることとなり、学術会議の自主改革に向かって大きく動き出すこととなった。

会長あいさつ及び諸報告について

開会あいさつの中で伏見会長は前日の各部会で改革第2次案に多くの意見が出されたことに触れ、総会での活発な審議を期待すると述べると共に、種々の困難

はあるが、科学者の総意を結集して自主改革を進めたい、また今総会で認められれば改革案を叩き台として各方面への働きかけを強めたい旨を表明した。

続いて、口頭あるいは文書による 161 件の諸報告が行われた。

会長からの科学技術会議報告に関連して、科学振興調整費の重要性からみて、学術会議として会長をバックアップするための何らかの組織が必要との意見があった。

「改革第 2 次案の取扱い（申合せ）」について

今総会の重要議題の一つである本件については、第 1 日目午後から第 2 日目午前にかけて、6 時間を超える真剣な討議が展開された。

今年 2 月の第 84 回臨時総会で示された第 1 次案に対して、その後提出された会員、有権者の意見メモなどを参照して、改革委員会が作成した第 2 次案を「本会議としての改革試案として学・協会、科学者その他関係方面に提示して意見を求めることを了承する」との申合せが提案され、若干の修正を加えてほぼ満場一致で可決された。

同試案は、第 1 部改革の基本的考え方、第 2 部個別的提案から成っている。

「基本的な考え方」をめぐる論議

審議のなかで「自主改革」の「自主」の意味が質問されたが、会長は「210 人の会員だけで改革するのではない、現会員で案をつくり、それを科学者その他各方面に提示して意見を求め、最終的には学術会議総会で決める」と答えた。

また、従来すべての科学者の意見を結集し、科学行政に反映する努力が足りなかったこと、より多くの有権者登録をはかる必要があること、会員のあり方を明確にすること、学会代表者の審議への直接参加の道を開くことなどの意見が出された。

個別的提案について

地方区問題については、地方区活動の重要性を認めつつも、選挙制度としての地方区のあり方が論議の焦点となった。結局、改革委員会から改めて提案された「地方区組織活動の重要性は認めるが、選挙制度としての地方区については全国区選挙との関係を考慮して抜本的に見直しを行う」ことで承認された。

「有権者、学・協会との結びつきの強化」・「選挙制度及内部組織の再編」につ

いても種々の意見が出されたが、直接選挙制を堅持し自主性、独自性を有する国の機関としての学術会議の任務と役割を果たすことをめざす点では一致していた。

今後の改革案策定作業を精力的に推進するために、改革委員会に必要な分科会を設置し、委員の増員をするなどして活動を強化することをきめた。

「核戦争の危機と核兵器廃絶に関する声明」について

この案件も今総会の主要議題の一つであった。

核兵器廃絶はもはや議論の段階ではなく実践の課題であり、各国政府の行動する意志こそ重要との認識に立って、今こそわが国政府が国際社会を軍縮に向けて動かす原動力となるべき特別の責任を負っているとわれわれは確信する、学術会議は、創立以来平和に対する科学のあり方に重大な関心を払ってきたが、核によって国の安全をはかるという考え方からの速やかな脱却と新しい国際秩序の形成の必要性を強く認識し、科学者がある方途の探究に寄与することが不可欠と考える。われわれは各国政府の良識に切に期待するとともに内外の科学者に向かって理解と連帯を訴える。

との要旨の声明案が、平和と科学特別委員会と平和問題研究連絡委員会から共同提案された。これに対し、声明を出すことに反対もしくは消極的な意見、それへの反論などの活発な討議の後、賛成多数で可決された。

その他の議案について

以上のほか、「国際地球観測百年記念に際して（声明）」、「日本学術会議の関与する特定地域国際学術団体との学術交流について（申合せ）」、「国際会議代表派遣要領の改正について」、「日本学術会議会員選挙規則の一部改正について」、「第12期における第85回総会以降の研究連絡委員会等の組織・運営について（申合せ）」が提案され、いずれも原案どおり可決された。

日本学術会議広報委員会

受贈図書リスト（昭和56年11月1日～昭和57年5月31日）

奄美一自然・文化・社会一

（九学会連合奄美調査委員会，1982）

大阪教育大学紀要 I 人文科学 第30巻 第1・2号，第3号

（大阪教育大学，1981-82）

- 音声科学研究 XV (京都大学音声科学総合研究部会, 1981)
- カナノヒカリ ダイ10ゴウーダイ17ゴウ (カナモジカイ, 1981-82)
- 計量国語学 第13巻 第3-4号 (計量国語学会, 1981-82)
- 研究論集 第34-35号 (関西外国語大学, 1981-82)
- 言語学演習 '82 (東京大学文学部言語学研究室, 1982)
- 考古学雑誌 第67巻 第2-3号 (日本考古学会, 1981-82)
- 語学研究 第28-29号 (拓殖大学語学研究所, 1981-82)
- 国語学 第127集-128集 (共に2冊) (国語学会, 1981-82)
- 国語学研究 第21号 (東北大学文学部「国語学研究」刊行会, 1981)
- 国立国語研究所年報 第32号 (2冊) (国立国語研究所, 1981)
- 国立民族学博物館研究報告 第6巻 第2-3号 (国立民族学博物館, 1981)
- 国立民族学博物館要覧 1981 (国立民族学博物館, 1981)
- ことばのアスペクト 第1号 (京都産業大学言語研究会, 1982)
- 史苑 第41巻 第2号 (立教大学史学会, 1982)
- 宗教研究 第55巻 第3輯 (日本宗教学会, 1982)
- 人文論叢 第7号 (東京工業大学, 1981)
- 人類科学 34 (日本の風土) (5冊) (九学会連合, 1981)
- 人類学雑誌 第89巻 第4号, 第90巻 第1-2号
(日本人類学会, 1981-82)
- 朝鮮学報 第99・100輯合併号 (朝鮮学会, 1981)
- 通信 第43号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1981)
- 東方学 第63輯 (東方学会, 1982)
- 東洋学報 第63巻 第1・2号 (東洋文庫, 1981)
- 東洋文庫年報 (昭和55年度) (東洋文庫, 1980)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 No5
(名古屋学院大学外国語教育研究センター, 1981)
- 新潟大学教育学部紀要 人文・社会科学編 第23巻
(新潟大学教育学部, 1981)
- 日本学士院紀要 第36巻 第3号, 第37巻 第1-2号

- (日本学士院, 1980-81)
- 日本学術会議月報 第22巻 第10—11号, 第23巻 第1—3号
(日本学術会議広報委員会, 1981-82)
- 日本語学校論集 第8—9号
(東京外国語大学外国語学部附属日本語学校, 1981-82)
- 日本民俗学 第137—139号 (日本民俗学会, 1981-82)
- フランス語教育に関する調査集計報告書 (1981年度)
(日本フランス語フランス文学会アンケート委員会, 1981)
- 文学会誌 第32巻 (山口大学文学会, 1981)
- 方言研究年報 続六 (広島方言研究所, 1981)
- 法政大学文学部紀要 第27号 (法政大学文学部, 1981)
- 放送文化 1981年12月号—1982年5月号 (日本放送出版協会, 1981-82)
- 民族学研究 第46巻 第2号 (日本民族学会, 1981)
- 月刊みんぱく 1981年10月号—1982年5月号 (国立民族学博物館, 1981-82)
- 山口大学教養部紀要 第15巻人文科学編, 第15巻自然科学編
(山口大学教養部, 1981)
- 論集 第28号 (神戸大学教養部, 1981)
- 말소리 제 2 호 〈2冊〉 (The Phonetic Society of Korea, 1981)
- ACTA ASIATICA (*Bulletin of the Institute of Eastern Culture*) 41, 42 (東方学会, 1981-82)
- D. Seidenspinner-Nuñez: *The Allegory of Good Love*
(University of California Publications, 1981)
- alsed*, No. 24 (UNESCO, 1981)
- Archiv Orientální (Ar Or)* Vol. 49, No. 1-3 (Academia Praha, 1981)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. XLIV,
XLV (The School of Oriental and African Studies, 1981-82)
- NHAN NGUYEN HOAI: *CHINESE WRITING? CHINESE VOCABULARY?*
(NHAN NGUYEN HOAI, 1981)
- Current Contents of Academic Journals in Japan*

(Center for Academic Publications Japan, 1980)

Schuh, Russell. G., *A Dictionary of Ngizin*

(University of California Publications, 1981)

English Journal, Feb.

(National Council of Teachers of English, 1982)

Lingua 第7号

(早稲田大学英語学会, 1982)

Linguistique et Littérature (Academie Bulgare des Sciences, 1982)

Literature, Music, Fine Arts, Vol. XIV, No.2

(Editional Office German Studies, 1981)

Litteratura 2

(名古屋工業大学 外国語教室, 1981)

NAŠE ŘEČ, 4, 5 (nakladatelství Československé akademie věd, 1981)

Akira Yuyama, *Sanskrit Fragment of the Mahayana*

Mahāparinirvāṇasūtra

(国際仏教学研究所, 1981)

Slovo A Slovesnost, XLII 3, 4; XLIII 1

(Československa Akademie Věd, 1981-82)

SOPHIA LINGUISTICA, No. 8/9

(Sophia University, 1981)

Вестник Ленинградского Университета, № 20, №2

(Ленинград, 1981-82)

Поэтика Русского Фольклора, XXI

(Академия Наук СССР, 1981)

Русская Литература, № 3-4, 1

(Ленинград, 1981-82)

Русский Язык в Школе, 3-6, 1-2

(Москва, 1981-82)

Українська Мова і Література в Школі, 11-12, 1-2, 4

(Радянська Школа київ, 1981-82)

正 誤 表

『言語研究』81号分

目次と英文目字 (裏表紙)

INOUE Kazuko 論文の副題 Localic Hypothesis—→Localistic Hypothesis

に訂正 (An Approach Based on a Localistic Hypothesis of the Verb)。

目次 Norito Fujiyoshi →Norio Fujiyoshi に訂正。

英文目次 (裏表紙) FUJIYOSHI Norito→FUJIYOSHI Norio に訂正。

松村一登論文

p. 64 下から6行目 mukaa→mukaan に訂正。

p. 66 下から4行目 'same as (11a)' →削除。

p. 70 上から5行目 transformationally form the→transformationally
from the に訂正。

藤吉憲生論文

p. 83 11行目 *kiri* → *ki* (or *gi*)

p. 85 27行目 Contexts → contexts

p. 88 4, 7, 10各行 …… → →

p. 89 12行目 froms → forms

p. 91 22行目 in ternal → internal

p. 97 5行目 for tor the → for the

p. 100 2行目 nihoNgo no oNin → nihongo no onin

◇本誌は文部省昭和57年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。